Hiroshi SEKINE and Tamio KAKEGAI: Observation
on the Sanitation of Mothers and Children
at the Joboji-Machi

浄法寺町における母子衛生の観察

岩手医科大学第一内科学教室（指導 工藤祐三教授）

関 根 博・掛 貝 民 男

浄法寺町の乳児死亡率は全国平均に比較して非常に高く（30年，岩手県は全国第1位．浄法寺は岩手県第2位，1000：120），大沢はこの実態について，岩手県における衛生学的調査研究第7報に報告している．昭和30年に同町は母子保健指導特別対策地区に指定されたので同年8月8日より13日まで実施した乳児検診と共に母子衛生の観察を試み，その実態を調査してみた．

A) 町 勢

本町は県の北々西にあつて，その北々西端は青森県に接している．町の中心を西南端から東北に向つて安比川が貫流し，その真中に中心市街が形成されている（海拔約200m）．この本流を狭んで東西とも次第に高度を増し海拔1,000m前後の高山に連なつている．そして本流に対して東西から大体直角に各々6本の支流が注ぎ，丁度脊柱に対する肋骨様の状態を呈し，その沿線に細長い平野部を形成して，その間に50の部落が点在している．

1) 人口および戸数．

男	4,713人	女	4,563人	合 計	9,276人
---	--------	---	--------	-----	--------

（昭和30.9現在）

戸 数	1,463戸
-----	--------

2) 世帯数および一世帯当人数．

	町	県平均	盛岡保健所 平 均	福岡保健所 平 均
世 帯 数	1,456	250,256	45,821	16,181
一世帯当数	6.3人	5.7人	5.4人	5.9人

（気 温）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
町	-3.8	-2.9	3.0	5.1	13.7	16.7	22.1	21.2	17.4	11.9	2.9	-0.1
盛 岡	-4.1	-3.2	3.4	8.3	14.4	18.2	22.0	21.9	18.3	12.4	4.3	1.0

（9時平均）

3) 職業別数．

種別	農業	商業	林業	交通	サービス	工業	公 員	その他
実 数	896	140	120	50	25	15	110	100
百分率	61.7	9.6	8.2	3.4	1.7	1.0	7.6	6.8

4) 人口密度（1平方杆につき）

町	県平均	盛岡保健所平均	福岡保健所平均
52.65人	93.6人	125.0人	86.9人

5) 1人当年間収入額は22,137円であつて，県平均の70,751円に比較し1/3である．

6) 農地面積は1,544町5反6畝で農家一戸当たり平均面積は1町06畝2分である．

7) 気 温．

気温は冬季は盛岡より幾分寒冷であるが夏季は殆んど同程度である．

以上のように当町は，高原寒冷，人口密度の低い交通文化に恵まれない地域で職業の大半を農業に求め経済的に低く，これまでにみるべき施策も行われずに放置された地域である．

B) 育 児 に つ い て

乳幼児検査の際に，生後2ヵ月より1年半の乳幼児の保護者（母親）295名について次の諸項目を調査した．

1) 育児関心の有無

i) 乳幼児の育児および健康相談を受けたことがあるか．

あ る 19.3%

な い 80.7%

浄法寺町全図

岩手県全図

ii) 授乳のため栄養，休養，衛生に注意しているか。

いる 22.7 %

(入 浴)

日 数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	20	30以上	しない	平均
人 員	69	47	58	7	3	0	44	0	0	27	8	26	5	6.4

いない 77.3 %

iii) 予防注射を受けることについて。

しつている 74.5 %

しらない 25.5 %

2) 育児方法

i) 子供の面倒は誰がみるか。

母 27.4 %

父 2.4 %

祖 母 61.4 %

祖 父 4.7 %

その他 4.1 %

祖母 61.4 %，母 27.4 %と育児は祖母の仕事であつて母は労働力である。

ii) 赤ちゃんを育てるのに。

えじこ 52.0 %

ふとん 42.7 %

その他（ハンモック等） 5.3 %

えじこが 52.0 %と，まだ半数以上に利用されている。

iii) どんな所にねせておくか。

へ や こ 9.6 %

ざ し き 77.6 %

だいどころ 12.8 %

iv) 何日に一回入浴するか。

1～3日毎に入浴させているものが，各 69, 47, 58 名で大部分であるが 1 週間に 1 回のもの 44 名，10 日目に 1 回のもの 27 名，30 日以上に 1 回のもの 26 名，入浴しないもの 5 名は注目に値する。

v) 肌着は何日毎にとりかえるか。

vi) おむつを 1 日何回とりかえるか。

おむつを全然とりかえないもの 23 名，1 日 1～2 回のもの 9 名あるが，これはいずれも（えじこ）の利用者かと思われる。

3) 育児の智識

i) 日光浴をさせたことがあるか。

(肌 着)

日 数	1	2	3	4	5	6~7	10~15	16~20	30以上	平 均
人 員	160	69	47	2	2	11	1	1	3	2.2

(おむつ)

回 数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11以上	平均
人 員	23	5	4	21	20	46	73	44	30	1	21	7	6.4

あ る 64.9 %

な い 35.1 %

ii) 赤ちゃんを育てるのに次のどれが一番よいか。

母 乳 92.2 %

山 羊 乳 2.0 %

牛 乳 2.8 %

ミ ル ク 2.0 %

ごはんのり 0.7 %

わからない 0.3 %

母乳以外の数値は次の 母乳不足の場合と 混同したためかとも思われる。

iii) 母乳が足りない時、次のどれで 補いますか。

牛 乳 27.8 %

山 羊 乳 15.6 %

ミ ル ク 51.9 %

ごはんのり 4.7 %

iv) 赤ちゃんに 乳をのませる 時間を決めて いるか。

い る 25.4 %

いない 74.6 %

v) 子供が病気になつたらどうしますか。

医師のところにゆく 79.3 %

産婆のところにゆく 0.3 %

様 子 を み る 20.4 %

vi) 子供の風邪の症状。

しつている 79.8 %

し ら な い 20.2 %

C) 妊娠婦および両親について

前項と同様 295 名の母親について調査した。

1) 妊娠中充分な休養，栄養がとれるか。

と れ る 25.2 %

と れ な い 74.8 %

2) お産の時，誰がとりあげるか。

立会者	検査時	29.1~29.12	28年全国平均
医 師	4.4%	1.4%	10.1%
助産婦	81.7%	73.1%	85.4%
その他	13.9%	25.4%	4.6%

出産時立会者中医師，助産婦以外のものが，検査時（30 年 8 月）および 29 年において 13.9 %，25.4 % と全回平均に比較して 遙かに多く，今なお山間部においては「とりあげばあさん」の風習がある。

3) 産褥休養日数

平均 50.1 日で，当地には「初子 80 日」と長い休養期間を与える美風がある。

注) 乳児発育と大いに関係する。

4) 両親の結婚年令

i) 男は盛岡より 4 年早婚であるが，九戸と大体一致している。

ii) 女は盛岡より 2 年早婚であるが，九戸と大体一致している。

注) 盛岡および九戸の平均は昭和 28 年 8 月千田の統計による。

(産褥休養日数)

日 数	4	15	20	30	40	50	60	70	80	100	平均日数
人 員	1	2	6	33	63	82	68	28	8	3	50.1 日

(結婚年令)

年令	父 母 別	父	母
15		0	1
16		1	1
17		1	20
18		9	58
19		25	38
20		34	47
21		44	22
22		19	21
23		28	14
24		17	14
25		16	6
26		11	8
27		15	2
28		12	4
29		8	1
30		6	1
31		3	0
32		3	0
33		1	0
34		5	0
合 計		258	258
平 均		23.2±3.4	20.3±2.6
盛岡平均		27.3±2.2	22.7±2.0
九戸平均		23.3±4.2	20.7±2.7
		24.6±6.0	20.8±3.3

5) 母の年令階級別出生児数

母の年令	実数	子の 実数	子供を生んだ女子1000人 につき		
			浄法寺	岩手県	全 国
15~19	7	7	1000	1000	1237
20~24	92	140	1522	1444	1388
25~29	99	237	2383	2275	1990
30~34	59	209	3542	3538	3064
35~39	30	136	4353	4833	4140
40~45	10	56	5400	5774	4939
	297	739		昭 25 年度統計	

6) 結婚年数と出生児数

年 数	実数	出生 児数	平 均 値		
			浄法寺	盛 岡	九戸
1~5	119	182	1.5	1.4	1.7
6~10	96	300	3.1	2.4	2.8
11~15	21	92	4.4	3.8	4.3
16~20	18	91	5.1	6.6	7.1
21~25	6	44	7.3	—	—
26~30	1	10	10.0	—	—
計	261	719	—	—	—

盛岡、九戸の平均値は昭和 28 年 8 月、千田の行つた統計による。

7) 死亡児と母

	死亡児を持った 母		死亡児を持たな い母		計
	実 数	%	実 数	%	
浄法寺	70	26.8	191	73.2	261
盛 岡	—	20.0	—	80.0	—
九 戸	—	30~60	—	40~70	—

盛岡、九戸の平均は昭和 28 年千田の統計。死亡児を持った母は 26.8 % で盛岡より多く、九戸より少い。

D) 乳幼児について

昭和 30 年 8 月 8 日より 13 日まで乳幼児検診を実施し、該当人員 358 名中受診者 297 名について調査した。

調査年令は生後 2 カ月より 1 年 6 カ月までの乳幼児で、疾病異常、身体計測、発育状況、栄養方法、離乳状況等につき調査した。

1) 疾病異常について

疾病異常については

i) 受診者 297 名中 122 名で、41.1%である。

ii) 佝僂病質 25 名 (20.5%)、気管支炎 28 名 (22.9%)、臍ヘルニアおよび鼠径ヘルニア 20 名 (16.4%)、膿痂疹等皮膚疾患 30 名 (24.6%)、栄養不良 6 名 (4.9%) で、これらの疾患が大部分を占めている。

これら各疾患は、前述の育児調査と大いに関係づけられる。

第 1 表 身 体 計 測

1) 身 長

月令	男		女	
	実 数	平 均	実 数	平 均
2	6	63.4	7	48.7
3	8	60.0	9	61.0
4	13	60.8	5	59.6
5	9	63.6	14	62.1
6	8	64.2	11	62.0
7	8	67.9	10	65.1
8	12	66.4	9	65.5
9	7	69.0	9	66.0
10	7	67.5	5	66.5
11	9	69.2	10	68.1
12	11	71.9	3	70.9
13	11	70.8	13	70.5
14	13	73.5	5	71.6
15	7	74.5	5	72.4
16	14	77.7	8	75.6
17	6	74.8	5	73.7
18	9	76.4	2	76.8

第 2 表 身 体 計 測

2) 体 重

月令	男		女	
	実 数	平 均	実 数	平 均
2	6	6.66	7	4.14
3	8	6.70	9	5.78
4	13	6.19	5	5.54
5	9	6.55	14	6.21
6	8	7.11	11	6.80
7	8	8.16	10	6.79
8	12	7.15	9	7.16
9	7	7.82	9	7.00
10	7	7.85	5	7.28
11	9	7.85	10	7.64
12	11	8.21	3	7.86
13	11	8.29	13	7.70
14	13	8.81	5	8.37
15	7	8.89	5	8.00
16	14	9.41	8	8.53
17	6	8.56	5	9.20
18	9	9.55		

第 3 表 浄法寺助産所新生児身長体重平均
(昭和 29 年度)

	性 別	実 数	平 均	標 準
身 長	男	28	50.00	49.4
	女	17	52.23	48.5
体 重	男	28	3.079	3.06
	女	17	3.002	2.95

第 1 図 身 長

第 2 図 体 重

2) 身体計測

第 1, 2 表および第 1 図 2 のように身長体重は男女共に 3 カ月までは全国平均を上まり, 4 カ月以後は全国平均より低下している。これは産褥休養日数 (平均 50 日) と就労に関係があると思われ, 更に低下した体格は学令期まで影響している。すなわち助産所における男 23 名, 女 17 名の出生時の身長, 体重の平均は第

第 4 表 浄法寺小学校身長体重測定平均 (昭和 30 年度)

種別	性別	年令		6	7	8	9	10	11
		学年		1	2	3	4	5	6
身長	男			108.4 (109.9)	114.1 (115.4)	119.9 (120.6)	124.2 (125.1)	130.0 (129.5)	134.9 (134.0)
	女			108.8 (108.9)	110.5 (114.4)	118.6 (119.2)	123.3 (124.2)	127.7 (129.0)	133.4 (134.4)
体重	男			18.1 (18.6)	20.5 (20.6)	23.1 (23.0)	26.9 (25.2)	28.0 (27.4)	30.8 (30.0)
	女			18.6 (18.1)	19.4 (20.1)	22.0 (22.3)	24.0 (24.5)	27.0 (27.2)	30.0 (30.4)

註) () 内は全国平均

第 5 表 母の年令階級別, 暦月別出産数 (昭和 30 年)

年令 暦月		15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	計	月別割合(%)
総数	出産数	9	44	56	35	10	3	157	—
	割合(%)	5.7	28.0	35.7	22.3	6.4	1.9	—	—
1 月	数	—	4	7	6	—	—	17	10.8
2 月	数	—	4	1	3	2	—	10	6.4
3 月	数	1	4	6	6	—	1	18	11.5
4 月	数	—	3	5	3	—	—	11	7.0
5 月	数	—	5	5	1	1	—	12	7.6
6 月	数	—	3	5	1	3	—	12	7.6
7 月	数	1	3	4	3	1	—	12	7.6
8 月	数	—	3	3	3	2	2	13	8.3
9 月	数	1	3	7	1	—	—	12	7.6
10 月	数	1	4	6	2	—	—	13	8.3
11 月	数	1	7	5	3	—	—	16	10.2
12 月	数	4	1	2	3	1	—	11	7.0

第 3 図 昭和 30 年度浄法寺小学校児童身体測定平均

第 4 図 昭和 30 年度浄法寺小学校児童身体測定平均

3 表のように男では身長 50.0cm, 体重 3.079kg, 女では身長 52.2cm, 体重 3.002kg で全国平均に比較してわずかに上廻る結果を示している。また浄法寺小学校の各学年の身長, 体重の平均を 29 年度の全回平均に比較すれば第 4 表第 3 図のように男子の身長は 4 年生まで, 体重は 2 年生まで全国平均より低く, 女子の身長体重は共に全学年を通じ全国平均以下である。

3) 栄養方法

	実 数	%
母 乳	210	80.5
混 合	46	17.6
人 工	5	1.9
計	261	

母乳栄養は 80.5 %, 混合栄養 17.6 %, 人工栄養 1.9 % で 8 割まで母乳栄養であるが乳児の発育状況は産褥休養後いわゆる就労と共に標準以下を示し, 母乳不足, 労働のための授乳不足 (たとえば朝昼夕 3 回の授乳) も認められる。又混合栄養は 17.6 % であるが母乳不足よりはむしろ労働との関係が主である。更に混合, 人工栄養を行つている者はほとんどその調乳法を知らない。

4) 混合栄養および人工栄養の種類

各種共単独使用で, 併用はみられない。粉 (離 乳)

月令 人員	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計
実 数	8	10	15	18	2	11	7	20	11	2	104
累 計	8	18	33	51	53	64	71	91	102	104	104
%	3.9	8.7	16.0	24.8	25.7	31.1	34.5	44.2	49.5	50.5	

(生 歯)

月令	5	6	7	8	9	10	11	12	13 以上	計
発生実数	9	23	51	45	20	13	10	6	1	178
%	3.7	13.1	34.1	52.6	60.8	66.2	70.3	72.7	73.1	

(歩 行)

月令	11	12	1 年 1 カ月	1 年 2 カ月	1 年 3 カ月	1 年 4 カ月	1 年 5 カ月	計
実 数	5	20	8	10	5	3	3	54
%	3.8	18.9	25.0	32.6	36.4	38.6	40.9	

	混 合	人 工	計	%
牛 乳	6	1	7	13.7
山 羊 乳	8	0	8	15.7
粉 乳	31	4	35	68.6
穀 粉	1	0	1	2.0
計	46	5	51	

乳は 68.6 % で最も多く, 牛乳は 13.7 %, 山羊乳は 15.7 % であるがほとんど自家飼育による自給自足である。なお穀粉単独使用が 2 % にみられる。

5) 離乳について

生後 5 カ月以後の乳幼児 206 名中 離乳を行つたもの 104 名 (50.5 %) 離乳を行わないもの 102 名 (49.5 %), 標準の 7 カ月で離乳を開始している者は 16.0 % である。

1 年 2 カ月で, なお 50.5 % の離乳開始状況で非常に遅れている。

6) 発育について

i) 生歯開始状況。

5 カ月以後の乳幼児 241 名中 生歯開始したもの 178 名 (73.1 %), 標準 7 カ月で生歯を開始しているものは 34.1 % で約 1/3 に過ぎず, 1 年で 72.7 % とはなはだ遅れている。

ii) 歩行開始状況。

11 カ月以上の乳幼児 132 名中歩行開始した

第 6 表 性別、妊娠月数別、出生時の体重別出生児数、総数に対する割合及び平均体重（昭30年）

妊娠月数		総数	1.0kg未満	1.0~1.5	1.5~2.0	2.0~2.5	2.5~3.0	3.0~3.5	3.5~4.0	4.0~4.5	不詳	平均体重(g)	昭和30年全国平均
総数	出生割合(%)	157	1 0.6	—	2 1.2	7 4.5	52 33.1	77 49.0	13 8.3	1 0.6	4 —	2,784	3,111
男													
総数	数%	83	—	—	2 2.5	2 2.5	29 35.8	39 48.1	9 11.1	—	2 —	3,037	3,152
7カ月	数%	1	—	—	1 100.0	—	—	—	—	—	—	1,680	1,587
8カ月	数%	1	—	—	1 100.0	—	—	—	—	—	—	1,900	1,957
9カ月	数%	1	—	—	—	1 100.0	—	—	—	—	—	2,360	2,487
10カ月	数%	78	—	—	—	1 1.3	29 37.2	39 50.0	9 11.5	—	—	3,077	3,188
女													
総数	数%	74	1 1.4	—	—	5 6.9	23 31.9	38 52.8	4 5.6	1 1.4	2 —	2,499	3,068
7カ月	数%	1	1 100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	740	1,554
8カ月	数%	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,906
9カ月	数%	1	—	—	—	1 100.0	—	—	—	—	—	2,200	2,425
10カ月	数%	70	—	—	—	4 5.7	23 32.9	38 54.3	4 5.7	1 1.4	—	2,529	3,102

もの 54 名で、標準の 1 年 1 カ月に開始しているものは 25.0 % と非常に少い。

1 年 5 カ月において 40.9 % と半数にみたない程遅れている。

E) 出産状況について

昭和 30 年 1 月から 12 月までの出産状況を次の項目について調査してみた。

i) 母の年令階級別、暦月別出産数。

第 5 表のように年令別では 25~29 才が 35.7 % で第 1 位、以下 20~24 才の 28.0 %、30~34 才の 22.3 % で全回平均に一致し、20~34 才の年令層が総数の 85.9 % を占めている。

季節的変動についてみれば、全国平均が毎年のように 1 月に最も多く、以後次第に減少して 6 月に最も少く、7 月以後やや増加して 10 月以後再び減少する傾向を示しているのに

対して本調査では 3 月 11.5 % が最も多く、ついで 1 月、11 月の順で 2 月が最少であつた。

ii) 出生児の体重。

性別、妊娠月数別、出生児の体重別出生児数については表 6 にみるように総数、性別共に 3.0~3.5kg の割合が最も多く、総数で 49 %、性別では男 48.1 %、女 52.8 % であつた。

妊娠 10 カ月の出生児についてみれば 3.0~3.5kg が最も多く男 50 %、女 54.3 % を占めている。

統計的に未熟児と言われる 2.5kg 未満は女に 1.4 % (妊娠 7 カ月) みられたが、妊娠 10 カ月では男女共にみられない。

平均体重は、総数では男 3,037g、女 2,499g であり、妊娠 10 カ月では男 3,077g、女 2,529g で昭和 30 年全国平均に比較すれば男女共に下

廻っている。

iii) 死産について。

死産は総数 4 で、出産数との割合は 2.5 % である。季節の変動についてこれを見れば、5, 6 月が各 1 件、7 月 2 件を占め、昭和 30 年全国平均死産率においては 5~9 月が高く、特に 7 月が最高率であるが、本調査においても同じような傾向がみられる。

iv) 年令および分娩回数と弛緩性出血。

年令	16~19	20~24	25~29	30~34	計	分娩回数別 出産数との割合 (%)
I	1	1	—	—	2	5.3
II	—	1	1	—	2	6.9
IV	—	—	1	1	2	7.1
VI	—	—	1	—	1	14.3
計	1	2	3	1	7	
年令別出産 数との割合 (%)	11.1	4.5	5.4	2.9		

年令別出産数との割合では 16~19 才の若年者層において 11.1 % を占めて高く、35 才以上ではない。出産総数との割合は 4.5 % である。

分娩回数別出産数との割合では、1, 2, 4 回においてはいずれも 5~7 % であり、6 回では 14.3 % と多く、本調査では分娩回数に比例してその割合が高くなっている。

む す び

昭和 30 年に本町が母子保健指導特別対策地区に指定された機会に同年 8 月乳幼児の検診を実施し、あわせて母子衛生の実態を調査してみた。

1) 育児その他について

生後 2 カ月より 1 年半の乳幼児の母 295 名についての調査成績。

育児に無関心	80.7 %
保育者が祖父母の場合	66.1 %
えじこの利用	52.0 %
入浴日数	6.4 日に 1 回
肌着の交換	2.2 日に 1 回
おむつの交換	1 日に 6.4 回
産褥就床日数	50 日
妊娠中の無休養	74.8 %

医師助産婦外の出産立会者 13.9 %

以上主なものについて列記したが育児に関しては多くの問題を残している。

2) 乳幼児について

生後 2 カ月より 1 年半の乳幼児 297 名の調査成績。

イ) 疾病異常: 122 名 (41.1 %)。佝僂病質 20.5 %, ヘルニア 16.4 %, 気管支炎 22.9 %, 膿痂疹 11.5 %。

ロ) 身体計測: 助産所における出生時の身長、体重の平均は昭和 29 年度において男児 50.0cm, 3.079kg, 女児 52.2cm, 3.002kg で全国平均に比し幾分高く、男女共に 3 カ月以後で全国平均に比較して減少を示し、これが学齢期まで影響している。

ハ) 栄養方法:

母乳栄養 80.5 % 混合栄養 17.6 %

人工栄養 1.7 %

混合、人工栄養の種類は

粉乳 68.6 %, 牛乳 13.7 %, 山羊乳 15.7 %, 穀粉 2.0 % で各種とも単独使用である。

ニ) 発育状況: 全回平均 7 カ月の生歯が 34.1 %, 全国平均 1 年 1 カ月の歩行開始が 25 % で遅延が著しい。

なお 7 カ月離乳開始は 16 % である。

ホ) 両親の結婚年令: 男 23.2 ± 3.7 才, 女 20.3 ± 2.6 才で都市よりも早婚である。

ヘ) 死亡児を持った母は 26.8 % で都市より多い。

3) 出産状況

イ) 出生時の体重: 昭和 30 年度においては平均体重 2.784g で全国平均 3.11g より低い。

ロ) 死産および後出血: 出産総数に対して死産は 2.5 %, 弛緩性出血は 4.5 % の割合でみられた。

主要文献

- 1) 岩手県厚生部, 衛生年報, 盛岡, 昭 30. (昭 33)
- 2) 大沢武夫: 日本公衛誌, 6 巻 1 号, (昭 34)
- 3) 厚生省の指針, 特集国民衛生の動向, 厚生統計協会, 6 巻 10 号, (昭 34)
- 4) 人口動態統計, 厚生省, (昭 30)
- 5) 千田耕作: 小児保健研究, 13 巻 2 号, 昭 (29)

mentioned. 4) There were no correlation observed among the threshold of sensorium, darkness of skin color, so-called vitamin C cutaneous reaction, copper contents of serum, and iron contents of serum.

(From the Department of Hygiene, Fukushima Medical College, Fukushima)

Observation on the Sanitation of Mothers and Children at the Joboji-Machi

By

Hiroshi SEKINE and Tamio KAKEGAI

As the mortality of infant at the Joboji-machi was very high as compared with national mean value, this town was appointed as the special district for sanitary guidance of mothers and children in 1955.

The Present author conducted an examination for infants and studied on the actual sanitary condition of mothers and children in August 1955.

1) On the infantile nursing and the other items.

The results of the research on 295 mothers who have infants 2 months to 1 year and half after birth.

Indifference of the infant nursing.....	80.7%
Nurse is grandparents.....	66.1%
Use of "Ejiko" = a cradle.....	52.0%
Days of taking bath.....	once in 6.4 days
Change of underwear.....	once in 2.2 days
Change of diaper.....	6.4 in a day
Days of puerperium.....	50 days
No holiday during pregnancy.....	74.8%
Witness of birth except doctor and midwife.....	13.9%

2) On the infant.

The result of the research on 297 infants from 2 months to 1 year and half after birth.

a) Illness.....	122 infants (41.1%)
Rachitis constitution.....	20.5%
Bronchitis.....	22.9%
Hernia.....	16.4%
Impetigo.....	11.5%

b) Body measurement.

Stature and weight on the birth at maternity clinic was a little higher than

national mean value and it was a slight decrease to school age from a three-month old baby.

c) The manner of nutrition.

Breast milk.....80.5% Artificial feeding 1.7%
Mixed feeding.....22.9%

d) The state of development.

Dentition (at a seven-month old baby of the national value.).....34.1%
Walking start (at a thirteen-month old baby of the national mean value.)...25%
Weaning start (at a seven-month old baby.).....16 %

e) Marriage of parents was earlier then that of the city people.

Male.....23.2±3.7 years old
Female.....20.3±2.6 years old

f) Mother of the dead child were 26.8% more then that of the city people.

3) On the state of birth.

- a) The body weight on the birth was lower that of the national meal value.
b) The rote stillbirth was 2.5% and the birth after bleeding was 4.5%.

*(From the Department of Internal Medicine, I st Division,
Iwate Medical College, Morioka)*